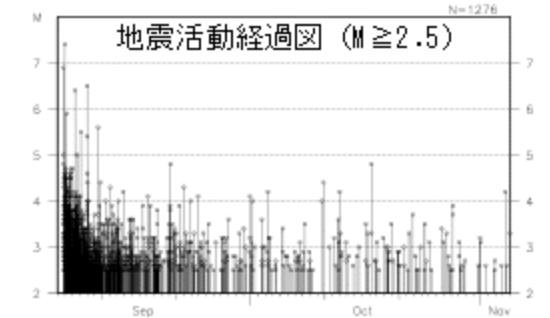
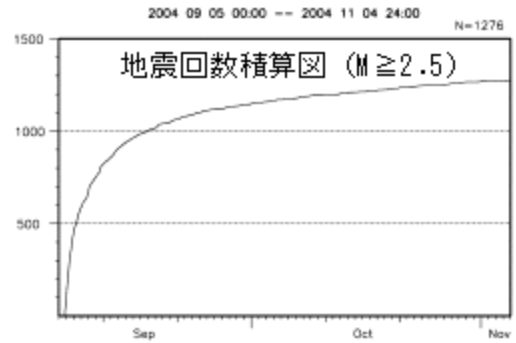
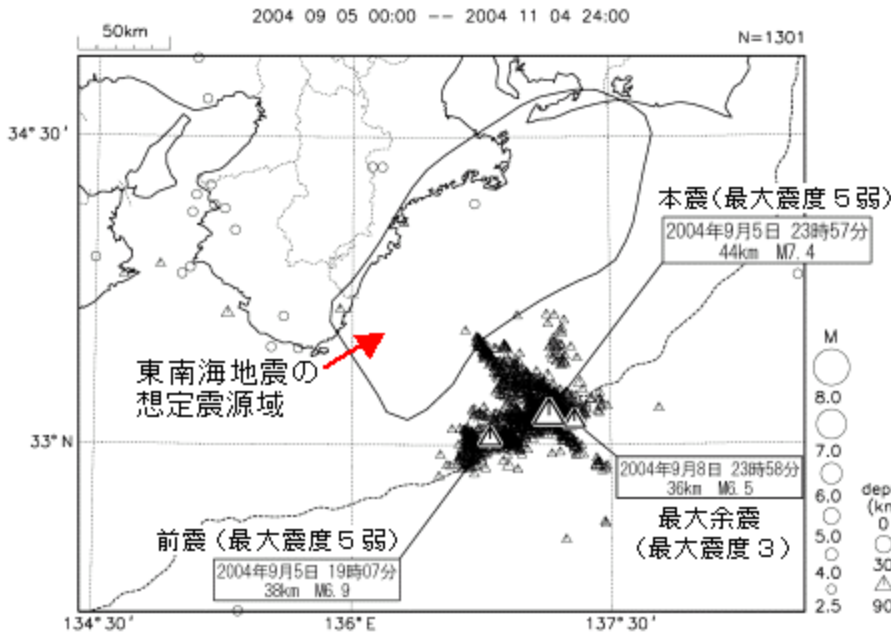
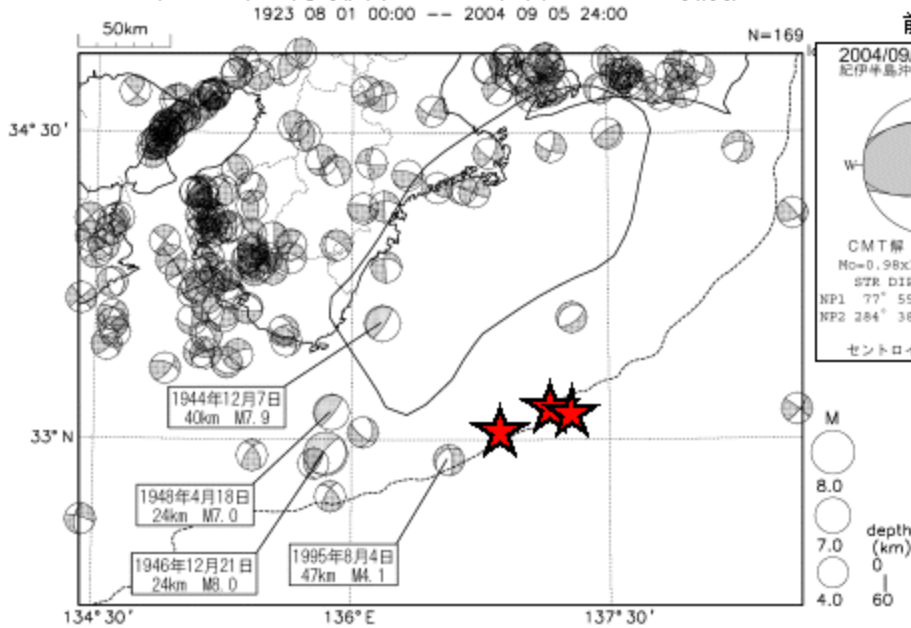


# 9月5日 紀伊半島南東沖の地震

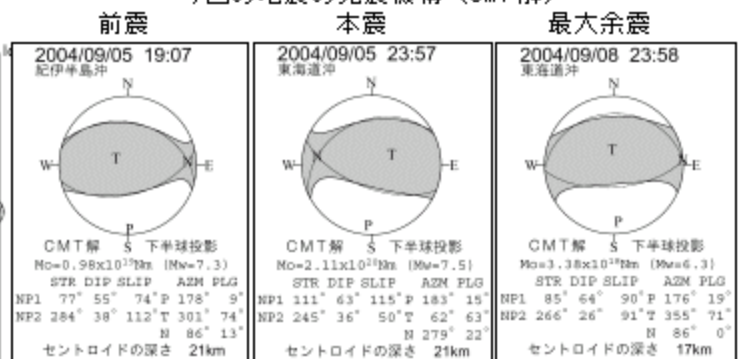
震央分布図 (2004年9月5日以降、M $\geq$ 2.5)



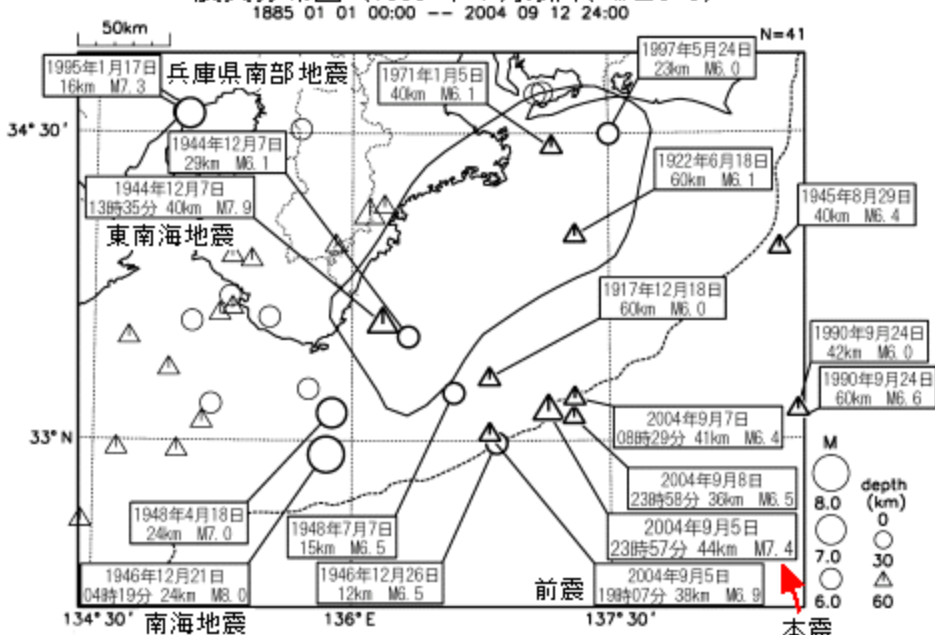
発震機構分布図 (P波初動解)  
(1923年8月以降、M $\geq$ 4.0、深さ60km以浅)



今回の地震の発震機構 (CMT解)



震央分布図 (1885年1月以降、M $\geq$ 6.0)



2004年9月5日23時57分に紀伊半島南東沖〔東海道沖〕でM7.4(最大震度5弱)の地震が発生した。この地震に伴い、串本で高さ0.9m、神津島で高さ0.8mの津波を観測した。

また、その約5時間前の19時07分には、本震の西南西約40kmでM6.9(最大震度5弱)の前震が発生し、神津島で高さ0.5mの津波を観測した。

地震活動は、前震-本震-余震型で推移し、8日23時58分には余震域の東端でM6.5(最大震度3)の最大余震が発生した。その後、余震活動は順調に減衰している。

発震機構(CMT解)は、いずれも南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。

今回の活動の周辺では、1944年12月7日に東南海地震(M7.9)、1946年12月21日に南海地震(M8.0)が発生している。